

1 自己評価結果に対する学校関係者評価

〔自己評価の評定は、A(十分に成果がみられた)、B(成果がみられた)、C(成果があまりみられなかった)、D(成果がみられなかった)の記号で表すこと〕

評価領域	本年度の重点目標	具体的取組(具体的な指標等)	自己評価		学校関係者評価委員会の意見	来年度に向けて(改善方策等)
			評定	成果・課題		
主体的な学び	「自ら課題をもち、学び合いを通して考えを広げ、深める子」 ○ わかる授業の展開 ○ 人から学ぶ場の設定 ○ 学習規律の徹底 ○ 系統的・継続的な学習指導(園小中連携・一貫教育)	ア 教員の専門性を生かす一部教科担任制の継続実施(「わかりやすい」80%以上) イ 算数を中心に少人数指導の充実(「わかりやすい」85%以上) ウ 学習支援室活用推進教員を積極的に活用した個別指導(週20単位時間以上) エ ICT機器の利活用(教職員80%以上)	B	各項目の具体的な指標について、肯定的回答(「そう思う」「ややそう思う」)は次のとおり上回った。しかし、否定的回答が相当数あり、「そう思う」が必ずしも高くない状況。教職員のICT機器活用に大きな課題がある。 アイ 児童92・88% 保護者98%・99% ウ 週20時間以上実施 エ 教職員58%	ICTの利活用については、メディアセンターを有効に活用してほしい。 メディアセンターをクラブ活動の時間にも活用することで、コンピュータの扱いが得意な児童は、更に能力を発揮し、意欲的になるのではないかと。	児童一人一人に応じたわかりやすい授業が一層推進できるよう、指導体制や指導方法の改善に更に取り組んでいく。 メディアセンターの効果的な活用について校内で研修を進めていく。
自他を尊重する心	「自他を認める温かい心をもつ子」 ○ 自己有用感の醸成 ○ 友達との関わりを通した学ぶ機会の充実	ア 児童が自分のよさや進歩を自認できるようにする場・評価の工夫(「先生は…よいところを認めてくれている」85%以上、「自分にはよいところがある」80%以上) イ 自分に自信をもち、異なる考えも尊重できるようにする場・評価の工夫(「助け合って…考えを広げたり深めたり」(3人に2人以上))	B	教職員からの肯定的な言葉掛けで、児童の自己有用感が引き続き高まる傾向。「優しく接する」「助け合う」児童は8割前後の状況。 ア 「(先生は)よいところを認めてくれている」児童84%・保護者95%、「よいところがある」児童88%(前年度+3ポイント) イ 「助け合って」児童77%、「誰に対しても優しく」児童86%	アンケート結果の「先生はよいところを認めてくれている」「自分にはよいところがある」「誰に対しても優しく接している」の肯定的回答率が高いところが、浦安小学校のよいところであると感じる。	校内研究(国語)を通し、自他の考えや意見を伝え合い、相互に理解し、互いの考えを広げ深めるような活動を工夫していく。 校内研究においても、積極的にICTを活用することで教育効果を高めていく。
健やかな体	「自分を信じて挑戦する子」 ○ 体験活動の充実 ○ 体力の向上 ○ 命を尊重する授業の充実	ア 児童が主体的に挑戦することができるようにする場づくり・支援の工夫(「自分を信じて挑戦している」75%以上、「粘り強くがんばろうとしている」90%以上) イ 食育、体力の向上、安全、心身の健康に関する指導を各教科等の特質に応じた適切な実施(各テーマについて複数学年で実施)	B	様々な体験活動の場を設けた。「挑戦」は引き続き8割弱、「粘り強さ」は下降傾向が続く。体力・運動能力調査結果に大きな課題(ウ)。 ア 「挑戦」児童78%(前年度+1ポイント)・保護者75%(前年度-5ポイント)、「粘り強く」が「がんばろう」児童81%(前年度-4ポイント)・保護者70%(前年度+2ポイント) イ 食育(1年)、体力の向上(マラソン・長縄記録会 全学年、スポーツ教室 全学年)、安全(交通1・3年、防犯1年、生活・災害5・6年)、心身の健康(がん予防・薬物乱用防止6年)等 ウ 8項目中、全国値以上 男子2.3、女子3.2項目	「できた」という経験が子ども達の自信につながると思うので、体育の授業を通して「できた」という体験を子供たちにたくさんさせてあげてほしい。 小学生は遊びを通して体力をつける環境づくりも大切ではないかと。	体力・運動能力調査の結果から、すべての学年において運動能力に課題が残るため、体力向上の手立てとして、体育部会を中心に年間を通して取り組める活動を工夫していく。 マラソン記録会や長縄記録会などを通して、子どもたちの「自分を信じて挑戦」する姿勢が高まってきている。適度な困難さの目標を立て、肯定的な評価(言葉掛け)を継続することで、「粘り強さ」を更に高める工夫をする。
豊かなかわり	「様々な立場の人と積極的にかかわる子」(重点目標「人を大切にする子 地域を大切にする子」) ○ 異学年交流の充実 ○ 特別支援学級と通常学級との交流 ○ 地域との交流活動の充実	ア 学習活動や各種行事における異学年や特別支援学級との交流の計画的な実施(「地区の日」年間5回、なかよし学級3年生以上の児童全員の日常的交流)、「誰に対しても優しく接している」90%以上) イ 地域の教育力を生かした積極的な交流、連携による体験活動の充実(「地域の行事や活動に進んで参加」(67%(3人に2人)以上))	B	「地区の日」等、高学年が下学年に対し、優しく接したり楽しく遊んだりする姿が随所でみられる。地域での活動に課題がある。 ア 「地区の日」年間5回実施(見込み)、なかよし学級の日常的交流3年生以上9名全員が実施、「誰に対しても優しく」児童86%・保護者92%(順に、前年度+2、-2ポイント) イ 児童62%(前年度+2ポイント)・保護者64%(前年度+6ポイント)	地区の日の活動を通して、異学年の子供たちと関わりあえることはとてもよいことだと感じる。 地区の日の活動の中でも、遊びを通して体力の向上を図ることができると思う。地区の日の目的をはっきりさせることで、さらに浦小独自のよりよい取組になっていくと感じる。	異学年交流の推進・充実とともに、園小交流の範囲を広げること等により、年少者と豊かにかかわる活動を更に推進する。また、PTAや地区子ども会と連携することで、子供たちの体験活動の場の充実を図る。更に地域と共に防災訓練を計画するなど、地域と連携した防災体制の再構築等により、児童と地域のかかわりを高めていく。
凡時徹底	「あたり前のことが あたり前にできる子」 ○ 「浦安っ子のあたりまえ」の徹底 ○ 学習規律の確立(再掲)・「学びのスタンダード」の徹底	ア 「浦安っ子のあたりまえ」を定着できるような毎月の振り返り、翌月の目標の設定と取組(「自分から進んであいさつ」「時間を守って行動」「話をよく聞く」「困っている人を進んで助ける」「一生懸命掃除」各85%以上) イ 「学びのスタンダード」の確実な実施と振り返り(振り返り2回、「意識して」100%)	B	「掃除」「話をよく聞く」「進んで助ける」の児童の意識は目標値以上、「あいさつ」は上昇傾向、「時間」は下降傾向。取組の工夫が必要。 ア 児童「掃除」「話をよく聞く」「進んで助ける」85%以上、「あいさつ」81%・「時間」76% イ 教職員「学びのスタンダードを意識して授業」95%(「そう思う」30%、「やや」65%)	「あいさつ」について、肯定的な回答が伸びてきたことはよいことであり、地域から見ても浦安小学校の子ども達は、元気に挨拶をしてくれる印象がある。 アンケートの結果について、クロス集計等も活用できると更に子ども達の姿を詳しく分析できるのではないかと。	「浦安っ子のあたりまえ」について、アンケート結果の分析をさらに工夫し、到達状況をもとに見直ししていく。 本中学校区の「学びのスタンダード」については、学校と家庭が共有し、引き続き学習規律の定着を図っていく。
園・小中連携	「夢に向かって自分を磨き 地域の未来を切り拓く子」 ○ 確かな学力 ○ しなやかな心 ○ 心身ともにたくましく	ア 「家庭学習ががんばり週間」の中学校区における連携した設定(年3回)による家庭学習習慣の向上(「家で、自分で計画を立てて勉強」(67%(3人に2人)以上)) イ 本中学校区ブランドデザインによる連携した指導の継続(「中学校区の園小中と連携して諸活動を進めている」保護者85%以上) ウ 「うらすや園・小・中連携の日」における情報共有(対面式による実施)	B	園児と児童、児童と生徒との交流など、園小中連携の活動は、園児への読み聞かせを新規に加え「コロナ禍」以前と同程度以上実施。 ア 同週間を6・9・11・2月に実施(「(家で)計画を立てて勉強」児童60%で、主体的学習は引き続き課題(「そう思う」28%で、昨年度-3ポイント) イ 「園小中と連携して諸活動」保護者88%(昨年度-1ポイント)で、昨年度と同程度の評価 ウ 8月21日4校6園が参集型で実施(14分科会)	園・小中連携の項目だけに限らず、アンケート結果の活用については、国や市で取り組んでいる既存のアンケートや活用も必要ではないかと。経年変化だけでなく、他校との比較から見えてくることもあると思う。	近隣のこども園、保育園と交流を深めることが今年度もできた。今後も交流の機会を充実させることで、園児がスムーズに小学校へ入学できるようにしていく。 また、園・小の接続段階における活動内容の重複や逆転状況の有無を見直すことなど、両者の教育課程のより円滑・効果的な接続について考えていく。

2 授業、行事、施設等に関する学校関係者評価委員の意見・感想

三地区自治会合同防災訓練に子ども達が参加してくれたことで、活気があった。今後も学校と地域が連携して取り組む。
OPTAより 災害が起きたときに学校や地域がどう動いたらよいか、また、避難所の設営や運営について、改めて確認・共有しておく必要がある。引き続き、地域(自治会)と連携した活動を充実していきたい。
○学校支援コーディネーターより 学校でのボランティアの活動を活発に行うことができている。漢字検定や読み聞かせ、図書館整備等の取り組みを引き続き、継続していけるとよい。